

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表 2025.3 調査 直接処遇職員 8 名  
2025.2 月実施

		チェック項目	はい	わからない	いいえ	備考
施設・設備の整備	①	利用定員は、指導訓練室などの面積との関係で適切であるか	6		2	
	②	指導員の配置人数は適切であるか	6		2	
	③	子どもにとって危険がともなうような、施設や備品の損壊・故障などはないか	8			
	④	ガラス窓や照明器具などの破損によるガラスの飛散が起こらないような対策をとっているか	8			
	⑤	子どもの行方不明や、部外者の勝手な侵入が起こらないような対策をとっているか	8			
活動の全体状況の整備	⑥	倫理綱領の策定、虐待防止委員会の設置、虐待防止責任者の選定をしているか	8			
	⑦	虐待防止マニュアルを策定するとともに、虐待を防止するための研修を行なっているか	8			
	⑧	防火・防災マニュアルを策定するとともに、火災・地震に対する訓練を定期的に行なっているか	8			
	⑨	感染症予防マニュアルを策定しているとともに、感染症を予防するための研修を行なっているか	8			
	⑩	個人情報保護指針を策定しているとともに、個人情報の取り扱いに十分に配慮しているか	8			
	⑪	子どもの事故やケガにつながるおそれを感じたときは、責任者に伝えているか	8			
	⑫	食物アレルギーのある子どもには、保護者の指示にもとづいて対応しているか	8			
	⑬	子どもの活動の記録を書いているか	8			
実践的な力量の向上	⑭	子どものことがわからないと感じたとき、早わかりしようせず、(どうしてなのか)と、自らに問い続けているか	7		1	
	⑮	子どものことがわからないと感じたとき、傍観するのではなく、働きかけて変化をつくりだし、理解しようとしているか	7	1		
	⑯	子どものことがわからないと感じたとき、独りよがりの判断をせず、ほかの職員に意見を聞くなどしているか	8			
	⑰	子どもの“問題行動”に出会うとき、その内側に、その子の本当の願いが隠されていると考えて、内面を探ろうとしているか	7	1		

	⑱	子どもの“問題行動”に出会うとき、わが身に引き寄せるなどして、その理由を共感的に理解しようとしているか	8			
	⑲	子どもの表面的な事がらを並べるのではなくて、働きかけて、肯定的な事実をつくりだし、それを意味づけようとしているか	7	1		
	⑳	気持ちの育ち(人格の形成)には、その子固有のテンポがあるということを押さえて、子どもを理解しようとしているか	8			
	㉑	子どもの発達は、ひたすら前進するのではなくて、新しい矛盾を抱え込むと押さえて、子どもを理解しようとしているか	7	1		
	㉒	学校で頑張ってきたあとの活動という、生活の流れを意識して、子どもを理解しようとしているか	8			
	㉓	大人の目の育ちに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、子どもを理解しようとしているか	7	1		
	㉔	遊びや生活をつうじて、子どもの気持ちの育ち(人格の形成)をはかっていることを意識して、子どもに働きかけているか	8			
	㉕	子どもの育ちの状況を確認、保護者の意見も聞いて、個別支援計画書を半年に1回は見直し、作成しているか	8			
	㉖	会議や研修会を定期的にかけて、子ども理解や実践などについて深めたり、学習したりしているか	5	1	2	
	㉗	子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか	5	1	2	
保護者との関係づくり	㉘	子どもが入会するとき、運営規程、活動の内容、利用者負担などについて、ていねいに説明しているか	7	1		
	㉙	保護者の言葉の内側に込められた思いや願いを汲み取ろうとして、懇切に対応しているか	5	2	1	
	㉚	保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取っているか	5	3		
	㉛	保護者に子どもや活動の状況を報告する機会をつくっているか	8			
	㉜	保護者から、子どものことでの悩みなどの相談があったときは、懇切に対応しているか	7	1		
	㉝	会報などを定期的につけて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりしているか	8			
	㉞	苦情などの意見が寄せられたときは、懇切に対応し、改善策をすみやかに伝えているか	8			
	㉟	保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくっているか	7	1		
	㊱	親子行事やきょうだいの会などを行なって、保護者・家族が交流を深める機会をつくっているか	7	1		

関係者・関係機関との連携	⑳	障害児相談支援事業所の担当者と連絡を取っているか	5	1	1	
	㉑	学校の年間計画、行事、下校時刻、送迎の方法などを確認しているか	7	1		
	㉒	学校の行事などに参加して、学校での子どもの様子を把握しようとしているか	5	1	1	
	㉓	学校と支援会議などを行なって、子どもについて意見の交換を行なっているか	5	1	1	
	㉔	協力をしてもらえる医療機関と協定を結んで、子どもの病気やケガなどに関する緊急の事態に対応できるようにしているか	5	2		
	㉕	学校入学前や卒業後の諸機関と、必要に応じて連絡を取っているか	5	2		
	㉖	地域住民に活動を理解してもらうための手立てを取っているか	5	2		
	㉗	障害のある子どもの放課後活動に関する連絡会に参加して、情報を共有したり、活動に協力したりしているか	5	2		

### 備考欄のコメントは以下の通り

- ① もう少し広いと良いと思う・基準は満たしているが、もっと広いと活動の幅が広がると思う  
年齢によって活動内容が異なる為、広い方が良い
- ② 10人定員で職員7名配置。配置基準以上の職員体制だが、体調や天候に応じて人手が欲しい時がある  
行動面で難しいお子さんには1対1でも難しい状況がある場合が生じる。また、職員の力量不足という問題もある
- ③ 常に点検している。その都度、発見したら直してもらっている。ミーティングで周知している
- ④ リフォームにより強化ガラスにした。シャワー室はアルミ板に変更。
- ⑤ 一人ひとりの子どもに担当者を付け、担当者が離れる時には他の職員に頼むことを徹底。職員同士が声を掛け合い所在確認している。“さすまた”を置いている
- ⑥ 常勤が虐待防止責任者になっており、委員会設置。倫理綱領策定している
- ⑦ 職員会議で研修会を開催。マニュアルを各自で読む。職員会議で指摘し合い一歩手前の危険性が無かったかを伝えあう
- ⑧ 年に各1回の防災訓練と防火訓練を行っている
- ⑨ 職員会議にて研修を行いマニュアルの確認を行っている。職員会議で流行状況情報の確認
- ⑩ 書庫に鍵のかかる場所に保管。職員全員が誓約書にサイン
- ⑪ ヒヤリハットファイルを作成し状況に応じて始末書を提出してもらう事になっている。危険な場所等は毎日のミーティングで確認する。活動の振り返りを行っている
- ⑫ 現在は在籍していないが、偏食の強いお子さんには別メニューのおやつを出しているため、いつでも用意が出来る
- ⑬ 毎日の個人活動日誌。月間の活動の評価と課題。年間の振り返りを作成し職員会議で発表している。
- ⑭ 経験がまだ少ないので答えが出ない事が多いが自問自答になることが多い。その時の様子を振り返り思いを巡らせている。わからないことがあった時には自分で考えたうえで他の職員の意見を聞いている。すぐに結論づけず、他の職員にも相談している

- ⑮ 働きかけは、常に気を付けて、声掛けをしているが、どうにもならない時には周りの職員に助けられている。しているつもりだが、理解するまでの変化をつくりだせているかわからない。わからないことがあった時には活動日誌に書き出し、次回の同じ場面でどう対応するか考えている。かかわり方を変えて子どもの反応を見ている。その子の世界に入れてもらい一緒に遊ぼうと試みている
- ⑯ ⑭と同じ。送迎者の添乗に入り帰り道でたくさん話す。月間職員会議で他の職員の意見を聞いている。自分で理由をいくつか考え他の職員に尋ねている
- ⑰ 問題行動に関して常に問うている。しているつもりだが、「本人と向き合い問いながら探っている。問題行動だけを止める事だけ考えず、子どもの気持ちを探っている。表面的な言動に振り回されず本当は何をしたかったか、内面を探っている。発達や生活環境等、行動に振り回されず分析し本人に尋ねている
- ⑱ 行動だけに振り回されない様に考えている。振り返りながら仮説を立てている。せざる負えない子どもの気持ち、ストレスをわが身に置き換え共感し発散出来るような活動に心がけている。特別な人種ではなく自分と同じ感覚を持った相手としてかかわっている
- ⑲ 月間のまとめを通じて肯定的な事実を結び付け意味を見出している。表面的な行動から、その裏の子どもの何を伝えたかったのかを考えている。しているつもりだが、難しくそこまでの力量が無い。経験豊富な職員に答えを乞う事が多い。毎日の日誌及び月間のまとめから振り返っている
- ⑳ 職員会議などで、その子との関りのタイミングを見極め確認し合っている。時々、テンポをつかめず、「しつこくなってしまう事があるが、理解しようとしている。その時の表情を読み取り関わっている。その子の性格、育ち、環境なども考慮し、ほかの子との比較することなくその子と向き合っている。一人ひとりの子どもの育ち、今の段階等考えて考えている
- ㉑ 子どもの行きつ戻りつは知識、経験としても知っているのそのように考えている。その矛盾を本人が感じ辛い時期があると思うので、その時は対応を考えながら丁寧に関わっている。今までなかったような横揺れする事に気を付けている。1つ出来る事や成長するとまた新たな壁が出てくるのが有り、分かるようになったからできなくなることも有ることを押さえて行く
- ㉒ 学校だけでなく家族も入れた一連の中で理解しようとしている。行事や体調を把握し活動を考えるように気を付けている。下校時の子どもの様子をよく見て、活動を考えている。担任からの報告を把握しその後の活動につなげる。学校の様子聞き取りから、その日の活動を考えている。下校時の様子や報告を見て、「子どもの疲れ具合を考えて活動している
- ㉓ 特に同じ子を見ていると、そうなりがちで反省。他の職員の意見を聞く。子どもの育ちを理解し、自らの意識も育つように心がけている。研修や実践レポートなどから学び、子どもの見方が間違っていないかを問い続けている。自分の観方に疑問を持ち続け、他の職員と意見交換している。日々反省し学習の必要性を感じている
- ㉔ 共感だけでなく揺さぶりをかけたりしている。一緒に楽しんだり、時には揺さぶりをかけたり、子どもに合わせて関りを考えて行こうと意識している。毎日の積み重ねが大事。人格形成に関してとても重要でデリケートな時期なので注意している。遊びや生活を通して心を動かし、その動きや変化をとらえ次の活動につなげようとしている。楽しい遊びから育まれるよう考えている
- ㉕ 個々の担当者が面談資料及び個別支援計画案を作成し全体会議で意見交換している。
- ㉖ 月間の会議の中での振り返りと学習会を行っている
- ㉗ 研修参加費、交通費、日当を事業所が保証している。しているが、出来ていない、別の方法で見識を高められるようとしている。埼玉放課後連ビデオ研修を見ている。細々と全国の仲間と実践記録検討会を開催している
- ㉘ 各種の説明に加え入所体験見学をしてもらっている
- ㉙ 表面的な言葉で終えず、内側をくみ取ろうと送り時など時間があればしっかり聞くようにしている。保護者会や飲み会の開催で雑談の中から本音が見える事もある為大切にしている。年度末の個人面談で丁寧に

聞き取っているが難しいと感じている。連絡帳や送迎時でのやり取りを大切にしている

- ③⑩ 年度末に個人面談を行っているが、ラインや連絡帳、送迎時等常に会話を大切にと心がけている
- ③⑪ 保護者会、個人面談、送迎時に加え通信でもお知らせしている。
- ③⑫ 即、対応している。必要に応じて相談支援員や学校とも連携している
- ③⑬ 毎月の通信発行。保護者会の開催。親子バス遠足。保護者と職員の飲み会等を行っている
- ③⑭ 苦情というよりも要望等は連絡帳や送迎時にお伝えいただく事があるので持ち帰り職員会議などで相談し出来るだけ実行しようとしている。
- ③⑮ 前述のとおり、各種の開催を行っているが、全員参加は難しい状況がある
- ③⑯ 親子バス遠足開催で兄弟も多数参加してくれているが兄弟会を作って欲しいと保護者から要望を頂いた
- ③⑰ 相談支援事業所により対応が異なっているが行っている
- ③⑱ 学校から月間スケジュールと給食メニュー表が配布される。また、急な変更は保護者一斉メールを職員に転送してしてくれるため把握できている。
- ③⑲ コロナ以前は、運動会や文化祭なども参加できたが、コロナ以降は学校側が取りやめた。けれど、授業参観は年2回の開催を行ってくれているため、パートさんも含め意欲的に参加している
- ④⑰ 下校時のお迎えのルール説明会が毎年4月に行われるが、個別の事業所とのやり取りは行っていない。」  
けれど子どもに問題が発生した時には、学校と保護者と事業所でケース会議を学校で行ってくれる
- ④⑱ 近くの小児診療内科の先生がいる病院と提携している
- ④⑲ 就学前の情報は相談支援事業所を介して把握。卒業後はOB 会行事等で様子を把握出来るが事業所と直接の連絡を取っていない
- ④⑳ 近隣の方には、よく理解して頂いており、年末にはご挨拶に行っている
- ④㉑ 埼玉放課後連及び全国放課後連には積極的に参加している。また全国障害者問題研究会の学習会に参加している

以上